

米代川総合水系環境整備事業

事業評価要約書

平成28年11月7日

国土交通省 東北地方整備局 能代河川国道事務所事務所

			平成 25 年度評価後 3 年経過	
事業名	米代川総合水系環境整備事業	事業主体	東北地方整備局	
事業の概要	事業区間	米代川 あきたけんおおだてし 自：秋田県大館市 あきたけんのしろし 至：秋田県能代市	整備内容 【整備済】 ・水辺整備 1 地区 【整備中】 ・水辺整備 1 地区 【整備予定】 ・水辺整備 1 地区	
	事業着手	平成 19 年度	工事着手 平成 19 年度	
	全体事業費	全体：約 3.0 億円 (うち、残事業費 約 1.3 億円)	平成 18 年度 新規事業採択 時評価事業費	約 6.6 億円
	事業期間	平成 19 年度～平成 36 年度		

事業の目的	<p>豊かでうるおいのある河川空間の創造を目的に、河川の自然環境の保全、河川利用の促進等を図るものである。</p> <p>【水辺利用】</p> <p>米代川流域には、世界遺産に登録されている「白神山地」をはじめ、日本最大規模のクロマツ林「風の松原」、明治天皇ゆかりの「きみまち阪県立自然公園」などの景勝地が分布しており、良好な自然環境が存在している。米代川の堤防や河川敷では、散策やスポーツ等の利用が行われており、水域では、釣りやカヌー等の利用や各種イベントが盛んに行われている。</p> <p>また、米代川沿川には、かつて舟運がもたらした歴史・文化が残されているとともに、江戸時代後期の紀行家「菅江真澄」が沿川の土地の風土などを豊かな図絵と文章で書き残しており、米代川の歴史・文化を核とした観光資源としての活用が求められている。</p>		
	<p>きみまち阪県立自然公園</p> 	<p>鮎釣り大会</p> 	<p>桜づつみ公園</p> 
	<p>コスモスロード</p> 	<p>環境学習</p> 	<p>神明社例祭</p> 
	<p>グラウンドゴルフ</p> 	<p>ニツ井マラソン</p> 	<p>カヌー体験</p> 

以上を踏まえ、「米代川水系河川整備計画」および「米代川水系河川環境管理基本計画」の基本理念に基づき、水辺整備に関する事業を実施するものである。

米代川水系河川整備計画 基本理念

悠久の流れに 人と豊かな自然が織り成す 杉かおる 米代川

- ① 安全・安心の川づくり
- ② 豊かな自然を次世代に引き継ぐ川づくり
- ③ 豊かな暮らしを支える川づくり
- ④ 地域の活性化に寄与する川づくり
- ⑤ 住民参加と地域連携による川づくり

米代川水系河川環境管理基本計画 基本理念

杉かおる 清き流れに 今ふれあいをめざす 米代川

- ① 豊かな自然と清らかな流れにふれあえる米代川
- ② 秋北の豊かさと明日への活力を生み出す米代川

事業の目的

なお、これまでの環境整備については、拠点としての整備が主体であったが、「かわ」と「まち」を一体として捉え、観光振興・地域活性化を念頭においた「かわまちづくり」により、面的な広がりを見せている。

このように、河川利用の推進を図りつつ、地域の活性化や水系自体の観光振興等にも寄与し、発展していくことを期待するものである。



**【新規整備予定】H29～H31 予定
ニツきみまち地区かわまちづくり**

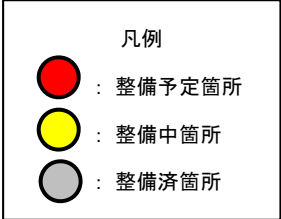
良好な自然環境及び河川空間を活かしながら、背後地に移設整備される「道の駅ふたつ」と一体となり、カー体験や環境学習、オープンカフェ・バーベキュー等の地域の賑わいの場として利活用されることを目的に、整備を実施。

**【整備中】H26～H28 予定
根下戸地区かわまちづくり**

良好な自然環境及び河川空間を活かしながら、スポーツや地域イベント活動の場、地域の賑わいの場として利活用されることを目的に、整備を実施。

**【整備済み】H19～H20
扇田地区河川環境整備事業**

良好な自然環境及び河川空間を活かしながら、地域住民の日常の利用、地区のイベント活動や伝統行事の場として利活用されるよう、親水護岸や散策路等を整備。



【整備済】水辺整備（扇田地区河川環境整備事業）

[概要]：扇田地区の高水敷は、灯籠流しや送り太鼓等の伝統行事のほか、散策、釣り、花火大会等に利用されている。

これらの利用促進と良好な水辺空間の創造を図るため、地域住民が主体となった「米代川扇田地区河川緑地協議会」で策定した環境整備計画に沿って、低水護岸や高水敷整正、管理用通路（散策路）等の整備を行った。

現在は、地域住民の日常の利用や、カヌー体験やサッカー教室等の地区のイベント活動、灯籠流しや踊り太鼓等の地域の伝統行事の場として利活用されている。

[整備内容]：管理用通路（散策路）、高水敷整正、階段 等



<管理用通路（散策路）>



<低水護岸>



<堤防階段>



<高水敷利用状況>



<米代川下り>



<河川公園祭り>

【整備中】水辺整備（根下戸地区かわまちづくり）

〔概要〕：根下戸地区は、かつて舟運が盛んであった時代に舟場として荷物の積み下ろしが行われた、川との関わりが深い地区である。地元小中学校による水生生物調査等の環境学習の場としての利用や、地元の釣り大会の開催が行われるなど、河川利用に対するニーズも高い地区である。当地区の利用促進と良好な水辺空間の創出を図るため、地域住民が主体となった「根下戸地区かわまちづくり懇談会」により、整備計画や利活用・維持管理計画を検討した。

〔整備内容〕：管理用通路（散策路）、低水護岸、高水敷整正、堤防階段、堤防坂路 等



事業内容

〔効果〕：大館市中心市街地に近い当該地区周辺には親水的な空間が乏しいことから、グラウンドゴルフ等のスポーツや、地域イベント等に活用されることで、地域の新たな賑わいの場・地域交流の場が創出される。東大館駅に比較的近いことから、川やまちを散策、サイクリングすることで、米代川を中心とした豊かな自然や大館市の歴史・文化を満喫することができる等、観光振興への寄与が期待される。平成 25 年 4 月には「根舟温泉」が完成しており、更なるネットワークの拡大と、地域活性化が期待される。



〈高水敷整正（グラウンドゴルフ場）〉



〈低水護岸（船着場）〉



〈管理用通路（散策路）〉



〈環境学習〉



〈釣り〉



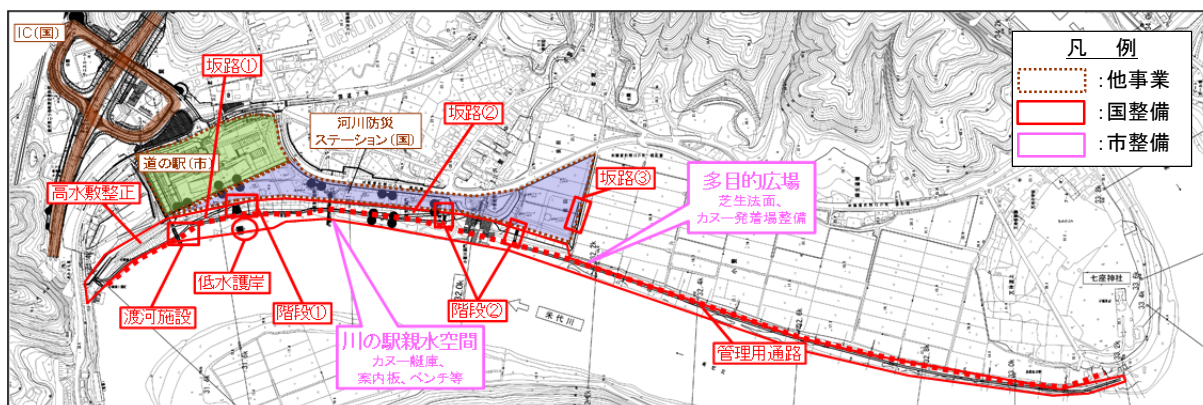
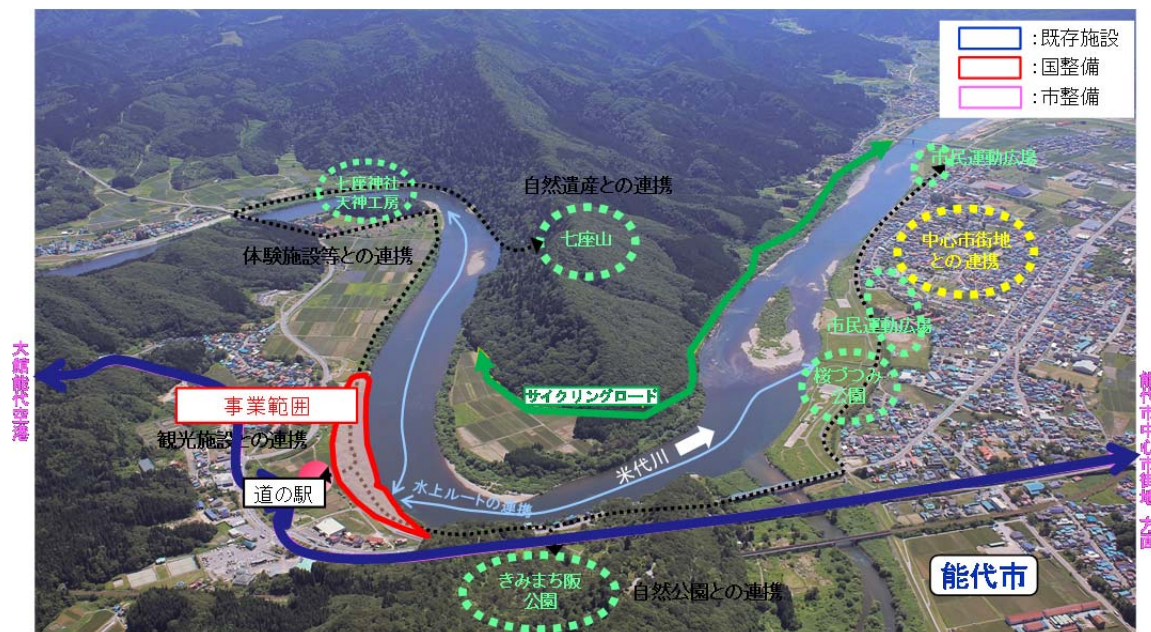
〈米代川の川下り〉

【整備予定】水辺整備（二ツ井きみまち地区かわまちづくり）

【概要】：二ツ井きみまち地区は、かねてから二ツ井町桜つつみモデル事業（H5～H7）や、二ツ井町河川環境整備事業（H5～H7）を実施し、良好な水辺空間や遊歩道等の整備を行っており、川との関わりが深い地区である。

当地区の利用促進と良好な水辺空間の創出を図るため、地域住民が主体となった「能代市「川の駅」懇談会」により、整備計画や、利活用・維持管理計画を検討している。

【整備内容】：高水敷整正、坂路、階段、低水護岸、渡河施設、管理用通路 等



【効果】：今後近隣に高規格道路の小繋 IC や「道の駅ふたつ」が整備されるほか、河川防災ステーションを一体的に整備することも決定している。観光，防災，地域振興が連携した拠点づくりに対する地元の機運が非常に高まっている。

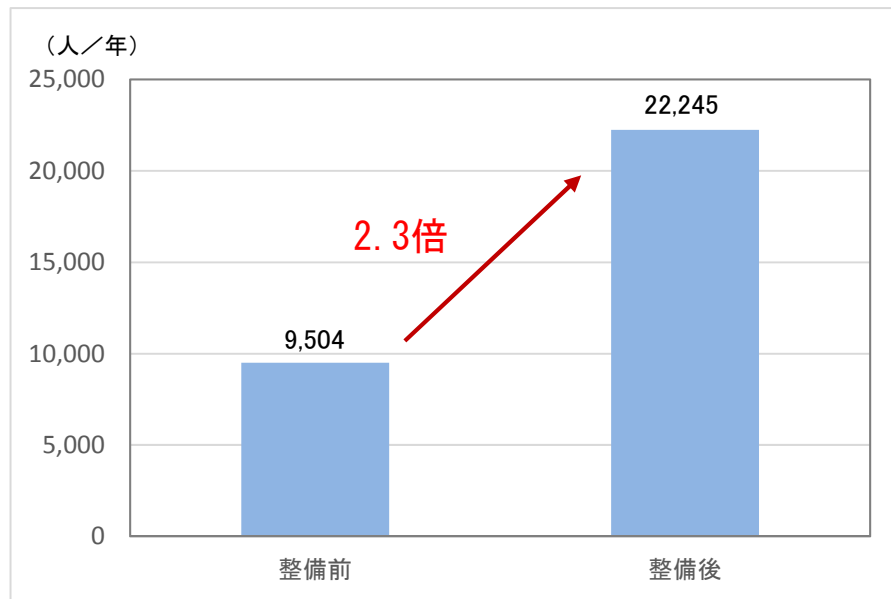
米代川の改修と併せて、河川利用上の安全・安心に係る河川管理施設の整備を図ること、またこれと一体的な整備により二ツ井地区の中心市街地活性化などを進めることで事業進捗および効果発現の面からも相乗効果が期待できる。

【扇田地区における整備前後の年間利用者数の変化】

扇田地区は、地域のお祭りやイベント等に利用されており、利用者が増加している。

表 扇田地区の整備前後の利用者数の変化

	整備前	整備後
年間利用者数	9,504	22,245



整備前: 当該地区のH5、H6、H9、H12、H15、H18の利用実態調査より

整備後: 当該地区のH24、H26の利用実態調査より

【地域の協力体制（クリーンアップ活動等）】

- ・ 扇田地区では、整備を契機として管理組合が発足し、地域住民による清掃活動など、河川環境改善に向けた活動が行われている。



〈中学生による河川清掃〉

(扇田地区)



〈町内会等による除草作業〉

(扇田地区)



〈地元団体による河川清掃〉



〈町内会等による除草作業〉

【かわまちづくりに関する勉強会・協議会等】

- ・ 扇田地区では、平成 20 年 2 月から民産学官（地域・市・国）による「米代川扇田地区水辺整備ワークショップ」が 5 回開催され、良好な河川空間の整備や適正な維持管理体制等について意見交換が行われた。



〈扇田地区のワークショップ〉

- ・ 根下戸地区では、平成 25 年 7 月より地域主体による「根下戸地区かわまちづくり懇談会」が開催されており、地域の憩いの場として整備や整備後の利活用、維持管理等について意見交換が行われた。



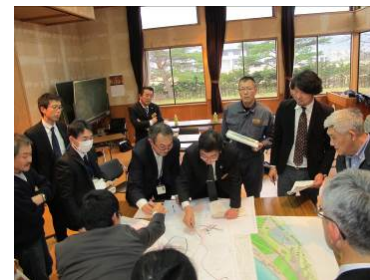
〈第 1 回根下戸地区の懇談会〉



〈第 2 回根下戸地区の懇談会〉



- ・ ニツ井きみまち地区では、平成 27 年 7 月から 12 月までの間に 4 回にわたり、国、能代市、市民、地元団体等による「能代市「川の駅」懇談会ワークショップ」を開催し、ニツ井地域のかわまちづくりの実現に向けて、地元主体で整備計画の検討を行った。



〈能代市「川の駅」懇談会ワークショップ〉

費用便益分析

【費用対効果分析】

①評価手法

便益の評価手法は、「河川に係る環境整備の経済評価の手引き」等に基づき、事業の特性等を踏まえて選定している。

○水辺整備：利用価値が主体であり、客観的で恣意性の少ない「TCM法」を適用。

②算定の考え方

○TCM法：事業実施前後の河川空間利用実態調査及び各地区で行われるようになったイベント等を参考に、整備による利用者の増加数を旅行費用（移動費用並びに時間費用）に換算して算出。

【費用便益比】

■ 今回のB/C

- 全体事業 (H19~H36) : B/C = 2.4
- 残事業 (H29~H36) : B/C = 3.7

■ 前回評価時のB/C

- 全体事業 (H19~H33) : B/C = 1.6
- 残事業 (H26~H33) : B/C = 1.2

【前回からの主な変更点】

■ 事業箇所の追加、利用者数、単価等の更新

事業の投資効果

今回の検討 (H28)	前回評価時 (H25)
① 便益算定に係るデータの更新	
<p>【水辺整備事業：TCM】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備後の利用者数： H5~H26 河川空間利用実態調査結果、及び、各年のイベント等参加者を反映した整備後の平均利用者数 ・市町村人口（整備後）： 平成27年の推計人口データ（総務省統計局） ・ガソリン単価： 148円/L（東北の5ヵ年平均：H23~H27） ・燃費： 20.8 km/L（H28.3 自動車局乗用車・軽自動車） <p>※移動単価 =ガソリン単価÷燃費÷平均乗車人数 =148円/L÷20.8 km/L÷1.31人 =5.4円/km</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間費用原単位： 15.3円/分（東北のH27 毎月勤労統計調査結果より） 	<p>【水辺整備事業：TCM】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備後の利用者数： H5~H24 河川空間利用実態調査結果、及び、各年のイベント等参加者を反映した整備後の平均利用者数 ・市町村人口（整備後）： 平成24年の推計人口データ（総務省統計局） ・ガソリン単価： 140円/L（東北の5ヵ年平均：H20~H24） ・燃費： 17.4 km/L（H25.3 自動車局乗用車・軽自動車） <p>※移動単価 =ガソリン単価÷燃費÷平均乗車人数 =140円/L÷17.4 km/L÷1.31人 =6.1円/km</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間費用原単位： 15.2円/分（東北のH24 毎月勤労統計調査結果より）
② 費用の更新	
<ul style="list-style-type: none"> ・全体事業費：3.0億円（二ツ井ちみまち地区追加により増） ・維持管理費：3.7百万円/年（二ツ井ちみまち地区追加により増） 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体事業費：1.8億円 ・維持管理費：1.9百万円/年（扇田地区の実績に基づき設定）

【費用対効果検討結果】

■ H19～H36：全体事業

B/C = 2.4

事業期間：平成19年度～平成36年度

事業費内訳（現在価値化前）（H19～H36）

・水辺整備事業：約3.0億円
小計：約3.0億円

維持管理費内訳（現在価値化前）（H21～H86）

・水辺整備事業：約2.0億円
小計：約2.0億円

費用計（現在価値化前）（H19～H86）

・水辺整備事業：約5.1億円
小計：約5.1億円

■ H29～H36：残事業

B/C = 3.7

事業期間：平成29年度～平成36年度

事業費内訳（現在価値化前）（H29～H36）

・水辺整備事業：約1.3億円
小計：約1.3億円

維持管理費内訳（現在価値化前）（H29～H86）

・水辺整備事業：約1.0億円
小計：約1.0億円

費用計（現在価値化前）（H29～H86）

・水辺整備事業：約2.3億円
小計：約2.3億円

■ H19～H20：完了地区

B/C = 2.1

事業期間：平成19年度～平成25年度

事業費内訳（現在価値化前）（H19～H25）

・水辺整備事業：約0.8億円
小計：約0.8億円

維持管理費内訳（現在価値化前）（H21～H75）

・水辺整備事業：約0.7億円
小計：約0.7億円

費用計（現在価値化前）（H19～H75）

・水辺整備事業：約1.4億円
小計：約1.4億円

<全体事業>【米代川水系】

費用対効果分析

■ 事業期間：H19～H36

項 目			金 額 等
C 費用	事業費[現在価値化] ※1	①	312 百万円
	維持管理費[現在価値化] ※2	②	80 百万円
	総費用	③=①+②	393 百万円
B 効果	便益[現在価値化] ※3	④	948 百万円
	残存価値[現在価値化] ※4	⑤	2 百万円
	総便益	⑥=④+⑤	951 百万円
費用対便益比 (CBR) B/C ※5			2.4
純現在価値 (NPV) B-C ※6			558 百万円
経済的内部収益率 (EIRR) ※7			11.1%

※表示桁数の関係で計算値が一致しないことがある。

事業の投資効果

[費用]

※1：建設費は消費税を控除した額に、デフレーターによる補正及び社会的割引率 4%を用いて現在価値化を行い費用を算定。

・全体事業 304 百万円 → 現在価値化 312 百万円

※2：維持管理費は評価対象期間内（事業期間+50年間）での維持管理費に対し、消費税控除、デフレーターによる補正及び社会的割引率 4%を用いて現在価値化を行い算定。維持管理費は、完了地区である扇田地区の実績維持管理費の規模単価を用いて設定。

[便益]

※3：整備により発生する便益を、評価対象期間（事業期間+50年間）、社会的割引率 4%を用いて現在価値化し算定。

※4：残存価値は評価対象期間後（50年後）の施設の残存価値に対し、現在価値化し算定。

[投資効率性の3つの指標]

※5：費用便益比は総便益Bと総費用Cの比（B/C）であり、投資した費用に対する便益の大きさを判断する指標。（1.0より大きければ投資効率性が良いと判断）

※6：純現在価値は総便益Bと総費用Cの差（B-C）であり、事業の実施により得られる実質的な便益を把握するための指標（事業費が大きいほど大きくなる傾向がある。事業規模の違いによる影響を受ける）。

※7：経済的内部収益率は投資額に対する収益性を表す指標。今回の設定した社会的割引率（4%）以上であれば投資効率性が良いと判断（収益率が高ければ高いほどその事業の効率は良い）。

現在価値化：ある一定の期間に生ずる便益を算出するには、将来の便益を適切な“割引率”で割り引くことによって現在の価値に直す必要がある。

社会的割引率：社会的割引率については、国債等の実質利回りを参考に4%と設定している。

<残事業>【米代川水系】

費用対効果分析

■ 事業期間：H29～H36

項 目			金 額 等
C 費用	事業費[現在価値化] ※1	①	108 百万円
	維持管理費[現在価値化] ※2	②	34 百万円
	総費用	③=①+②	142 百万円
B 効果	便益[現在価値化] ※3	④	518 百万円
	残存価値[現在価値化] ※4	⑤	0.8 百万円
	総便益	⑥=④+⑤	519 百万円
費用対便益比 (CBR) B/C ※5			3.7
純現在価値 (NPV) B-C ※6			377 百万円
経済的内部収益率 (EIRR) ※7			18.3%

※表示桁数の関係で計算値が一致しないことがある。

事業の投資効果

[費用]

※1：建設費は消費税を控除した額に、デフレーターによる補正及び社会的割引率 4%を用いて現在価値化を行い費用を算定。

・ 残事業 128 百万円 → 現在価値化 108 百万円

※2：維持管理費は評価対象期間内（事業期間+50年間）での維持管理費に対し、消費税控除、デフレーターによる補正及び社会的割引率 4%を用いて現在価値化を行い算定。維持管理費は、完了地区である扇田地区の実績維持管理費の規模単価を用いて設定。

[便益]

※3：整備により発生する便益を、評価対象期間（事業期間+50年間）、社会的割引率 4%を用いて現在価値化し算定。

※4：残存価値は評価対象期間後（50年後）の施設の残存価値に対し、現在価値化し算定。

[投資効率性の3つの指標]

※5：費用便益比は総便益Bと総費用Cの比（B/C）であり、投資した費用に対する便益の大きさを判断する指標。（1.0より大きければ投資効率性が良いと判断）

※6：純現在価値は総便益Bと総費用Cの差（B-C）であり、事業の実施により得られる実質的な便益を把握するための指標（事業費が大きいほど大きくなる傾向がある。事業規模の違いによる影響を受ける）。

※7：経済的内部収益率は投資額に対する収益性を表す指標。今回の設定した社会的割引率（4%）以上であれば投資効率性が良いと判断（収益率が高ければ高いほどその事業の効率は良い）。

現在価値化：ある一定の期間に生ずる便益を算出するには、将来の便益を適切な“割引率”で割り引くことによって現在の価値に直す必要がある。

社会的割引率：社会的割引率については、国債等の実質利回りを参考に4%と設定している。

<完了地区>【米代川水系】

費用対効果分析

■ 事業期間：H19～H25

項 目			金 額 等
C 費用	事業費[現在価値化] ※1	①	111 百万円
	維持管理費[現在価値化] ※2	②	34 百万円
	総費用	③=①+②	145 百万円
B 効果	便益[現在価値化] ※3	④	296 百万円
	残存価値[現在価値化] ※4	⑤	0.8 百万円
	総便益	⑥=④+⑤	297 百万円
費用対便益比 (CBR) B/C ※5			2.1
純現在価値 (NPV) B-C ※6			152 百万円
経済的内部収益率 (EIRR) ※7			10.3%

※表示桁数の関係で計算値が一致しないことがある。

事業の投資効果

[費用]

※1：建設費は消費税を控除した額に、デフレーターによる補正及び社会的割引率 4%を用いて現在価値化を行い費用を算定。

・完了地区 80 百万円 → 現在価値化 111 百万円

※2：維持管理費は評価対象期間内（事業期間+50年間）での維持管理費に対し、消費税控除、デフレーターによる補正及び社会的割引率 4%を用いて現在価値化を行い算定。維持管理費は、実績の維持管理を用いて設定。

[便益]

※3：整備により発生する便益を、評価対象期間（事業期間+50年間）、社会的割引率 4%を用いて現在価値化し算定。

※4：残存価値は評価対象期間後（50年後）の施設の残存価値に対し、現在価値化し算定。

[投資効率性の3つの指標]

※5：費用便益比は総便益Bと総費用Cの比（B/C）であり、投資した費用に対する便益の大きさを判断する指標。（1.0より大きければ投資効率性が良いと判断）

※6：純現在価値は総便益Bと総費用Cの差（B-C）であり、事業の実施により得られる実質的な便益を把握するための指標（事業費が大きいほど大きくなる傾向がある。事業規模の違いによる影響を受ける）。

※7：経済的内部収益率は投資額に対する収益性を表す指標。今回の設定した社会的割引率（4%）以上であれば投資効率性が良いと判断（収益率が高ければ高いほどその事業の効率は良い）。

現在価値化：ある一定の期間に生ずる便益を算出するには、将来の便益を適切な“割引率”で割り引くことによって現在の価値に直す必要がある。

社会的割引率：社会的割引率については、国債等の実質利回りを参考に4%と設定している。

【感度分析】

費用対便益分析の結果に及ぼす要因について、要因別感度分析を実施した。影響の要因は以下の通りである。

- ・ 残事業費変動 (-10% ~ +10%)
- ・ 残工期変動 (-2年 ~ +2年)
- ・ 便 益 変 動 (-10% ~ +10%)

○ 全体事業：H19～H36

単位：億円

	基本 ケース	残事業費変動		残工期変動		便益変動	
		+10%	-10%	+2年	-2年	+10%	-10%
総費用C (現在価値化後)	3.9	4.0	3.8	3.9	4.0	3.9	3.9
総便益B (現在価値化後)	9.5	9.5	9.5	9.2	9.9	10.5	8.6
費用便益比 B/C	2.4	2.4	2.5	2.4	2.5	2.7	2.2

○ 残事業：H29～H36

単位：億円

	基本 ケース	残事業費変動		残工期変動		便益変動	
		+10%	-10%	+2年	-2年	+10%	-10%
総費用C (現在価値化後)	1.4	1.5	1.3	1.4	1.5	1.4	1.4
総便益B (現在価値化後)	5.2	5.2	5.2	4.8	5.5	5.7	4.7
費用便益比 B/C	3.7	3.4	4.0	3.6	3.7	4.0	3.3

※表示桁数の関係で計算値が一致しないことがある。

※表中の赤字：費用便益比が最大、表中の青字：費用便益比が最小

※なお、分析結果については四捨五入の桁数によって数値が変わることがある。

【便益の内訳及び根拠】

○便益の内訳（現在価値化）

- ・ 水辺整備の効果による便益：9.5億円

○主な根拠

- ・ 水辺整備 年間利用者増加数：66,324人

【費用の内訳（現在価値化）】

- ・ 水辺整備 事業費 : 約3.1億円
- 維持管理費 : 約0.8億円

事業
の
投
資
効
果

【事業による効果（地域のイベント活動等）】

- ・ 扇田地区では、年数回地域イベントが開催され、地域の交流の場として活用されている。また、8月には伝統行事であるひない盆祭りの灯籠流し会場として活用され、地域活性化に寄与している。
- ・ 米代川川下りが毎年8月に開催され、田代地区までの舟下りを楽しむ等、環境整備箇所が有効に活用され、観光振興に寄与している。

〈河川公園祭り〉



〈米代川舟下り〉



〈高水敷での伝統行事（灯籠流し）〉



〈灯籠流しの内容〉

- ・ 扇田民芸振興会による「送り太鼓演奏」
- ・ 扇田仏教会による読経、参加者のお参り
- ・ 各自が持参する灯籠を仮設の足場より流す
- ・ 送り花火の打ち上げ



〈ロードレース・駅伝大会〉



〈スポーツ少年団の練習風景〉



（扇田地区）

【事業による効果（社会的評価等）】

- ・ 扇田地区は、整備後の「川の通信簿」において四つ星（かなり良い部分があり、満足感を味わえる）の評価であり、前回評価よりも評価が上がっている。
- ・ 地域の維持管理によりゴミが無く、歩きやすい環境の評価が高い。

■平成26年現在の成績

総合的な成績：☆☆☆☆（四つ星）
かなり良い部分があり、満足感を味わえる

No.	点検項目	現在の状況			整備必要 %	重要度			
		良い	普通	悪い		非常に重要	重要	普通	不要
1	豊かな自然を感じますか		○		0%		○		
2	水はきれいですか		○		25%		○		
3	流れている水の量は十分ですか		○		25%		○		
4	ゴミがなくきれいですか		○		50%		○		
5	危険な場所がなく安全ですか	○			0%		○		
6	景色はいいですか	○			25%		○		
7	歴史・文化を感じますか		○		0%			○	
8	河川敷には、近づきやすいですか		○		0%		○		
9	水辺へ入りやすいですか	○			0%		○		
10	広場は利用しやすいですか	○			0%		○		
11	休憩施設や木陰は十分ですか		○		50%		○		
12	散歩はしやすいですか	○			0%		○		
13	トイレは使いやすいですか		○		0%		○		
14	案内看板はわかりやすいですか		○		0%			○	
15	駐車場は使いやすいですか	○			0%		○		

良い点
 悪い点



<自治体により整備されたトイレ>



<公園管理組合により設置された花壇>

■平成26年度 川の通信簿

◆扇田地区の特に良い点

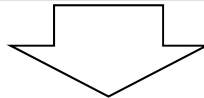
- ・歩道が歩きやすい
- ・ゴミが見当たらない

◆扇田地区の改善すべき点

- ・炎天下の際、休む陰がない
- ・水際の雑草が少し伸びている
- ・犬の糞が見られた

コスト削減の取組み

扇田地区、根下戸地区の環境整備事業で用いる土砂については、購入土ではなく、河道掘削により発生する土砂を流用することでコスト削減を図っている。



コスト削減の方針

維持管理の面では、地域の団体より清掃活動にご協力いただいている。



〈地区の団体によるクリーンアップ活動〉
（能代市中川原地区）

【秋田県知事からの意見】

建 政 - 1072

平成28年11月 1日

東北地方整備局長 川 瀧 弘 之 様

秋田県知事 佐 竹 敬 久



東北地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針(原案)の
作成に係る意見照会について(回答)

平成28年10月14日付け国東整企画第78号で依頼のありましたこのこと
について、別紙のとおり回答します。

県
か
ら
の
意
見

担 当 _____

██
██
██
██
██

○子吉川 直轄河川改修事業（継続）

本県では、県政運営指針「第2期ふるさと秋田元気創造プラン」において「県土の保全と防災力の強化」を掲げ、地震や津波、多発する水害、土砂災害等から生命と財産を守る安全な地域づくりのため、緊急性や整備効果の高い箇所を選択し、ハード、ソフト両面にわたる取組を推進しております。

また、豪雨による洪水被害や水不足に対応するため、国直轄ダムである成瀬ダムや烏海ダムの早期建設着手に向けた取組及び県管理ダムの計画的な点検・整備を推進しております。

当該、子吉川直轄河川改修事業は、度重なる洪水被害の軽減に加え、濁水対策等の水資源の活用など、流域一体となった計画的な治水対策事業であり、今後の事業継続に異議はありません。

残事業についても、引き続きコスト縮減に努めながら、早期に整備効果が発現されるよう、一層の事業推進をお願いします。

○米代川 総合水系環境整備事業（継続）

河川の水辺の環境整備により、河川空間が地域イベントや住民の健康づくりに活用され、地域の活性化が期待できるほか、環境学習等を通して河川愛護の意識向上にもつながることなどから、事業の継続に異議はありません。

なお、今後の整備予定箇所である「二ツ井きみまち地区」においては、近隣に日本海沿岸東北自動車道のインターチェンジや「道の駅ふたついで」が整備されるほか、河川防災ステーションも一体的に整備されることから、観光・防災及び産業振興の拠点としても地元からの期待が高まっていますので、事業の推進にあたっては、地域住民や関係市町村と十分な連携・調整を図りながら事業を推進していただきますようお願いいたします。

原案：事業継続

対応方針

（理由）

整備中である根下戸地区、整備予定である二ツ井きみまち地区については、地元自治体等より地域活性化の核として寄与することが期待されており、費用対効果等の投資効果も確認できる。

以上より、今後の事業の必要性、重要性に変更はなく、費用対効果等の投資効果も確認できることから、河川環境整備事業については『事業継続』が妥当である。